

未来へ夢を育む学校



学校だより

10月号 学校長 右橋 康彦



つながる、その先に

先日、6年生と一緒に1泊2日の修学旅行で日光へ行ってきました。日光江戸村、華厳の滝、奥日光、そして輪王寺、東照宮。教室で写真や資料を通して学んできたものを、実際に自分の目で見て、感じる2日間となりました。そんな修学旅行で、私の心に残ったのは、見学した場所だけではありません。むしろ、何気ない場面で見せる子どもたちの姿でした。体調を崩した友達がいれば、「大丈夫？」と声をかける。バスでは、少しでも楽に過ごせるようにと窓側の席を代わってあげる。荷物を持つのが大変そうな友達を見れば、自然と手を伸ばして運ぶ。誰が落としたのか分からないペットボトルを拾って片付ける姿もありました。どれも小さなことかもしれませんが。先生から「やりなさい」と言われたわけでもありません。それでも、周りの様子を見て、自分で考え、行動する。その姿に「優しいな」と何度も感じた2日間でした。学校に戻ってきた到着式で、私は6年生にこんな話をしました。

「白幡小学校90周年のスローガンは、『つながる ひろがる えがおになる』です。ただつながるのではなく、優しくつながる・誠実につながる。そんなつながり方が大切なのではないかと。」と。

相手のことを思って声をかける。困っている人がいたら手を差し伸べる。そんな1つ1つの行動が、人と人をつないでいくのだと思います。

そして最近、4年生の子どもたちからも、また違ったつながる姿を見せてもらいました。4年生の体験学習は、今年から宿泊ではなく、1日の活動として行うことにしました。これまでの宿泊体験学習では、学校の規模などから、施設で決められたプログラムを行うことが中心でした。そこで今年は、泊まることそのものではなく、「どんな体験をしたいのか」を子どもたちと一緒に考えてみようということになりました。先日、その実行委員の子どもたちが校長室を訪ねてきました。「こどもの国に行きたいです。」夏休み前にも訪れた場所ですが、「今度はグループやクラスでじっくり活動したい。」「アイスクリームも買って食べたい。」「電車を使って自分たちで行ってみたい。」そんな話を次々と聞かせてくれました。「校長先生も大賛成です。」そう答えながら、私はうれしくなりました。きっと最初から、1人1人の中に具体的な計画があったわけではないと思います。「こんなことがしたい」「それなら、こんなこともできるんじゃない？」。仲間や先生と話す中で、ぼんやりしていた思いが少しずつ形になり、「自分たちの体験学習」が見えてきたのでしょう。1人では見えなかったものが、誰かと話すことで見えてくる。自分にはなかった考えに出会い、自分の考えも広がっていく。これもつながる ひろがる なのだと思います。

6年生のように、相手を思いやって優しくつながること。4年生のように、仲間と話しながら考えを広げ、自分たちの活動をつくっていくこと。子どもたちの姿から、90周年のスローガンの意味を、私自身も改めて考えさせられました。人とつながることで、自分の世界は少しずつ広がっていきます。そして、そのつながりが優しく、誠実なものであれば、その先にはきっと「えがお」が生まれます。

90周年を迎える今年、白幡小学校の中に、そんなつながりがこれからもたくさん生まれてほしいと思っています。